



園だより

にじ

香川大学教育学部附属幼稚園
2016年5月27日

太陽の光が日に日に強くなっていくのを感じます。子どもたちのエネルギーも同じく出てきているのを感じます。「夏」へ向けて伸びていく時期なのでしょう。友達や先生、いろいろな自然物やモノ、できごとと出会って、心いっぱい、体いっぱいに楽しい、うれしいという気持ちを味わってほしいと思います。子どもたちは、自分で生きていく力を日に日にためています。一つ一つ試してみることが、感じたり考えたりしていくもとになっているのです。ですから、「少し大丈夫かな・・・」「できるのかな・・・」という大人が感じてしまうことを一歩ひいての見守り(安全に十分心を配りながら)が大切であると思います。子どもも一歩、大人も一歩しっかりと自分で感じて、考えて進んでいきたいと、思います。



心と体をつくること

体をつくっていく。子どもたちは、トレーニングをして、体づくりをしているわけではありませんよね。生まれたときから、自分の体の成長・発達に合わせて、体を動かし、日常の動きや遊びの中で、様々な体の部分を動かしながら、動きを覚え、スムーズに動かせるようになっていきます。当然、脳との関係も深く、試行錯誤していく中で、より自分にとっていい動きを身に付けていきます。楽しいから、体を動かして遊ぶ、いろいろな動きの可能性を広げるとともに、心の部分も育てていきます。はじめから、うまくスムーズに体は動いてはくれません。けれども、心に「〇〇してみたい」と目的(めあて・願い)があるから、そこになんとか届きたいと願う。悔しい、悲しい、不思議、葛藤等、感じながらもあきらめたくない気持ちも。「あきらめない」＝「信じる」だと思います。だから、ちょっと難しい挑戦できることを生活の中に自然に取り入れていってみてください。食事についても、自分の身支度着替え等についても、日々の積み重ねは大きいです。

「できーん」「無理!」と、ヘルプを求めてきたら、どうしましょう。子どものその思いの部分は受けとめつつ、やっといこう・・・と気持ちが向くような支えをゆったり考えてみましょう。少し手助けのいるところまでやってみせながら、最後は自分で、というかわりもあります。

手をかけすぎず、子どもにとって、必要な手(支え)を私たちも、保護者の皆さまも考え、子どもが自分でやってみられる心の育ちをサポートしていけたらと思います。

SC 堀間先生のカウンセリング

毎月カウンセリングだよりで、心や行動について、トピックを取り上げてお知らせしてくれています堀間先生。附属坂出学園の SC として、幼・小・中の保護者の皆さまが、ご相談できる場をもっています。心に困り感、悩みなどあるとき、相談することで少し感じ方、考え方を見つめたり、気持ちが楽になったりするかもしれません。

事前に幼稚園に連絡をいただければ、SC の予約をとれます。保育時間内での相談もお願いできますので、声をかけてください。[園 46-2694]

SC の日程は、毎月のカウンセラーだよりにて。

熊本地震支援の義援金 ありがとうございました



家族でお話して、子どもたちがもってきてくれた義援金が、3万7133円と集まりました。全附連の事務局へ送金しましたので、熊本附属学校園に贈られることになっています。

皆さまの温かい気持ちが少しでも元気と復興の力につながるように願うばかりです。

また、メッセージもありがとうございました。附属幼稚園へ届けられます。言葉や楽しい、優しい絵が、園児たちの笑顔をもたらしてくれるといいなと思います。



最近よく聞く「レジリエンス」という言葉。

しなやかな柳のような心の回復力のことだといわれます。一度



子どもたちの姿から・・・



「こいのぼりの魅力」

園庭に泳ぐこいのぼり。子どもにとって、「大きい」「かっこいい」「空泳ぎたい」「強そう」「気持ちいいだろうな」など、いろいろな思いをもっているでしょう。毎朝、こいのぼりを揚げる手助けをしてくれる子どもたちがいます。こいのぼりの箱を三輪車にバランスよく積み、ポールの下へ。そして、ポールの下でロープにひっかける私の手元を見ながら、「はい、これ」「引っ張る?」「早く揚げてよ」と、注文とアドバイスが入り混じります。こいのぼりを泳がせることへの責任と自信を感じているかのよう。実際、自分たちでだけすることは、難しいのですが、よくよく見ながら、自分もいつかできるよ・・・と、目を輝かせている姿がすてきだと思いました。

連休明けのある日、こいのぼりメンバーが集まって、箱を運んでいます。しかしながら、「今日は、雨が降りそうだね・・・」の私の言葉に、いろいろ考えたのでしょう。なんと、藤棚の下に、運び出し、そして、そこに、つなぎとめようとしているのです。4人5人が、あちこちもっては、紐を結びつけようとしているのです。しばらく様子を見ながら、考えている姿を頼もしく思っていました。藤棚に、結び泳がせたい・・・、そんな気持ちをかなえたいけれども、長い長いこいのぼりは、土埃の中に横たわっています。

子どもの願い どうしたものかなと考え、「ねえ、みんなでもってあげたら、泳げそうだと思うのだけれど・・・。」と問いかけてみました。黒のこいのぼりを手に持ちながら、「わ、ホントだ!」と、こいのぼりの体をそれぞれ手につかんで、ぐるり一周、園内を走りました。「わー、泳ぐ～」と楽しげなこいのぼりの声のよう(子どもの声)を響かせながら、走りました。きっと、黒いこいのぼりは、子どもたちの思いにわくわくしたことでしょう。子どもたちも、なんだか楽しそうなこいのぼり(電車)に連なることで、わくわくしたのではないかなと思います。ふっと、楽しいことを心に感じ合える場や時があることを願います。

その後、雨にも負けないこいのぼりを大きなビニール袋で作りました。

「～したらいい」「～しよう」と、口々に言いながら、「そうだね」とか「ふうん」と受け入れていくけれど、自分のしたいことにまっすぐな4歳児さんたちの「今」。自分の気に入った



子どもの遊びって？

『学びの物語』(ひとなる書房)

大宮勇雄先生(福島大学人間発達文化類教授)著

子どもの学ぶ力を見つめ、考えられている実践研究者でもある大宮先生です。著書の中に子どもを見つめる目として、ヒントになることが書かれています。キーワードを抜粋してみました。子どもたちへの目が、また一つ広がったり違ったりしていくことを願い、私たちも保育に携わっています。

本文より

- * 関心から熱中へ、そしてチャレンジが生まれる
- * なにげない行動にも意味があり、成長がある
- * 子どもは自分で困難を選び、自分で課す



こんな姿から

わ、なんだろう。
おもしろそうだな。
不思議だな。知りたいな

おもしろいぞ。
～してみよう。
あっ、～なのかな……。

?だ。……なぜなぜ。
うまくいかない。(葛藤・しんどさ)
でも、やってみたい。
やってみられるよ。きっと。
あっ、そうか。